

## 卒業生を対象とした調査（OB・OG アンケート）の結果について

### 1 はじめに

東京都立産業技術高等専門学校では、本校の教育水準の向上や教育内容の充実と改善を目的として、本校の前身校である東京都立工業高等専門学校（以下「工業高専」という。）及び東京都立航空工業高等専門学校（以下「航空高専」という。）の卒業生の方へのアンケート調査を実施しました。

#### アンケート対象の卒業年度

工業高専卒業生	対象卒業年度 平成 11、13、15、17、18、19、20、21
航空高専卒業生	

### 2 調査方法及びアンケート内容

#### (1) 調査方法

同窓会の鯨洲会（工業高専同窓会）、大空会（航空高専同窓会）にご協力をいただき、アンケート対象の卒業生の方（工業高専 1,214 名、航空高専 1,153 名）にアンケート用紙を郵送し回答をお願いしました。

実施期間：平成 22 年 10 月発送。最終回収締切、平成 23 年 2 月。

#### (2) アンケート内容

アンケートの質問内容（選択肢等一部省略）

- 質問 1. 卒業年度、卒業学科、入試の形態（推薦、学力、編入、その他）
- 質問 2. 卒業から現在までの経歴（お勤めの企業名など）
- 質問 3. 業種
- 質問 4. 勤務先の規模
- 質問 5. 役職
- 質問 6. 年収
- 質問 7. これまで経験された職種
- 質問 8. 在学中はどのような学生だったか（学習面と学習以外の面）
- 質問 9. 卒業後も高専時代の友人や教員と連絡を取り合っていますか、高専のネットワークはどんな時にどのような場面で役立ちましたか
- 質問 10. 最近、高専のことを見聞きする機会がありましたか
- 質問 11. 在学中に積極的に取り組んだものは何ですか
- 質問 12. 就職先や進学先を決定する上で最も重視したことは何ですか

- 質問 1 3. 高専の就職・進学支援は役に立ちましたか、また、進路選択に満足していますか
- 質問 1 4. 卒業後に取得した資格はありますか、今後、必要と思われる資格は何でしょうか
- 質問 1 5. 仕事上、重要なこと(能力)は何と考えますか、ご自身にもっとあればよい能力は何ですか
- 質問 1 6. 現在の学生に学ぶように勧めたい科目
- 質問 1 7. これまでの経験から、現在の学生に伝えたいこと
- 質問 1 8. 大学卒と比較した高専生の魅力
- 質問 1 9. (大卒や高卒ではなく)高専卒業生だから出来たこと出来ること
- 質問 2 0. 他高専出身者について、ご自身と比較して、どのような印象を抱いているのか教えてください
- 質問 2 1. 本校で学んだことの中で役に立ったことについて、その程度を教えてください
- 質問 2 2. 本校の教育目標に関連して、ご自身の経験から今後必要となると考えるもの
- 質問 2 3. 本校の教育で強化すべき点として最も強く望まれるもの
- 質問 2 4. 専攻科教育に何を期待しますか
- 質問 2 5. リカレント学習など再度高専で学習する機会に参加しますか、また、どのような内容を希望されますか

### 3 アンケート回答数

回答数は工業高専 84 名、航空高専 87 名の計 171 名で回答率は 7.2%でした。

アンケートにご協力いただきました卒業生の方には貴重な意見を頂戴しありがとうございました。

### 4 アンケート結果

#### (1) 卒業後の進路、現在の状況及び転職状況

表 1 と表 2 は、現在の状況と転職状況について、平成 1 7 年度から平成 2 1 年度までの 5 年間の卒業生とそれ以前の卒業生のデータに分けて整理したものです。

卒業後の進路においては、平成 1 7 年度より前は就職が 72.1%であったのに対し、平成 1 7 年度以降では就職 54.0%、進学 46.0%とほぼ半々となっています。また、現在の状況について、働いている卒業生は 83.6%、学生と回答したものは 16.4%となっています。

表 2 は、現在働いている卒業生の転職回数を示したものです。平成 1 7 年度以降では 97.3%の卒業生が 1 社目で仕事をしていることが分かります。それに対して、平成 1 7 年度より前の卒業生では、転職割合が増加しています。

		H17年度 ～H21年度	それ以前	合計
卒業後の進路	就 職	54	49	168
	進 学	46	19	
現在の状況	社会人	76	67	171
	学 生	26	2	

表 1 卒業後の進路及び現在の状況 (人)

	H17年度 ～H21年度	それ以前	合計
学生	26	2	28
1社目	73	35	108
2～3社目	1	29	30
4社以上	1	8	9

表 2 転職状況 (人)

(2) 卒業年度別年収の推移

図 1 は、勤続年数 5 年以内及び 5 年以上で分類した時の年収の分布を表したものです。

平成 17 年度から平成 21 年度の卒業生に関してはピークが 300 万円以下程度となっています。また、平成 17 年度より前の卒業生に関しては、ピークが 400 万円～500 万円代となっています。平成 21 年の国税庁による民間給与実態統計調査結果（付録）によると、勤続年数 1 年から 4 年で 350 万円程度、5 年から 9 年で 430 万円程度となり、年齢別に見ても 20 歳～25 歳が 256 万円、26 歳～30 歳が 355 万円となっていることから、本校卒業生も民間給与実態統計調査結果とほぼ同程度の年収を得ているのが分かります。

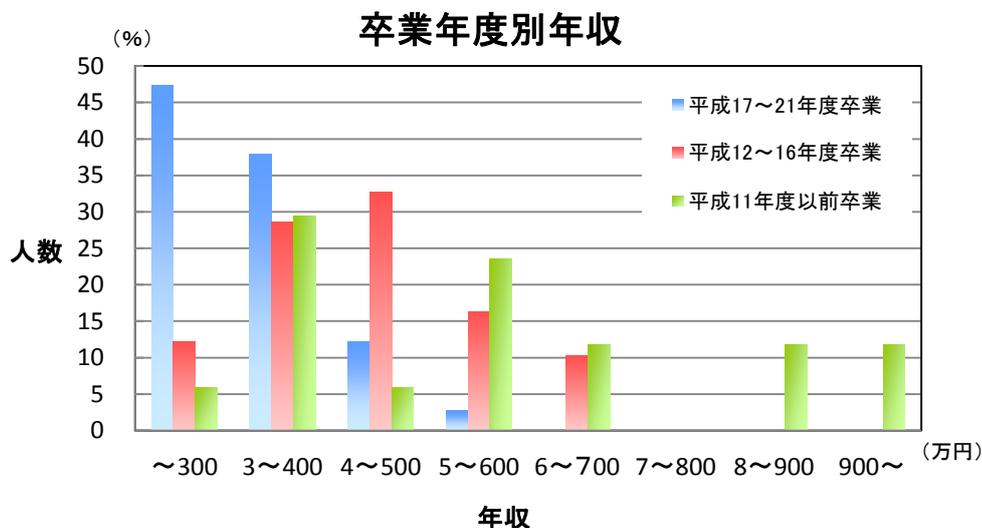


図 1 卒業年度別年収の推移

(3) 高専の教員、友人との関係、高専ネットワーク

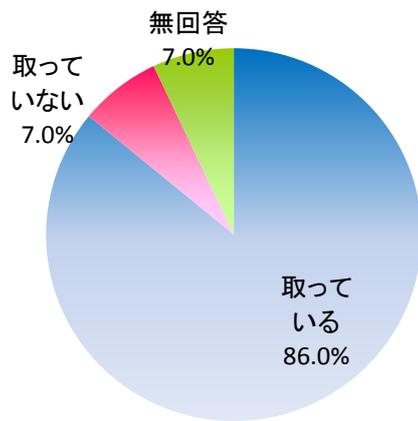


図 2 友人や教員との連絡

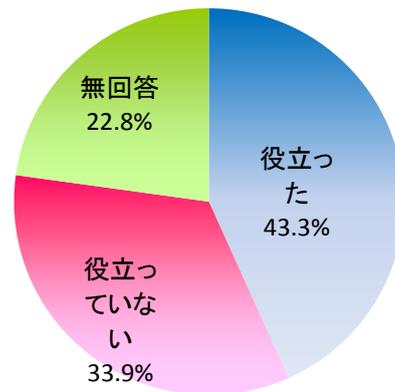


図 3 高専ネットワーク

大半の卒業生が、何らかの形で友人や教員と連絡を取り合っていることが分かります。また、そのうちの半数程度の卒業生は、高専ネットワークは役に立っていると回答しています。

(4) 在学中に取り組んだもの

図 4 は、在学中に取り組んだものについてまとめたグラフです。どの卒業年次においても部活動、同好会活動が 1 位でした。また勉強、アルバイトも在学中に取り組んでいるものの中で大きな割合を占めています。

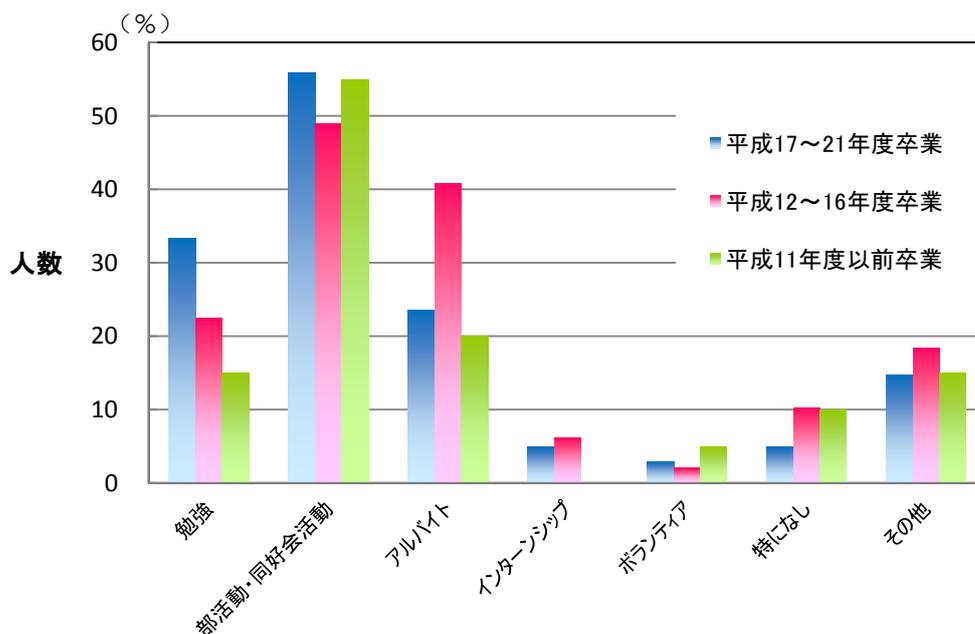


図 4 在学中に取り組んだもの

(5) 進路決定理由及び進路支援

図5、図6は、本校の進路支援に対する学生の満足度を示しています。就職・進学支援が役に立ったという卒業生が72%、同じく就職や進学の支援に対して73%の卒業生が満足していることが分かりますが、「役に立たない」、「不満足」と回答している割合が10数%に達した点は今後の課題と言えます。

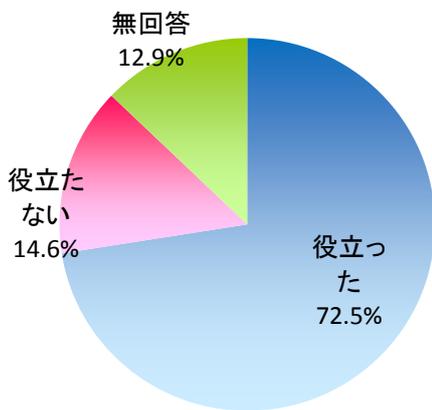


図5 就職・進学支援の活用度

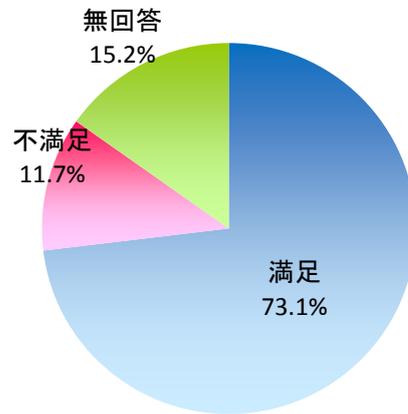


図6 就職・進学支援の満足度

図7は進路決定理由を示したものです。進路を決めるに当たり、業種や安定性、また専門分野との関連を重視していることが分かります。

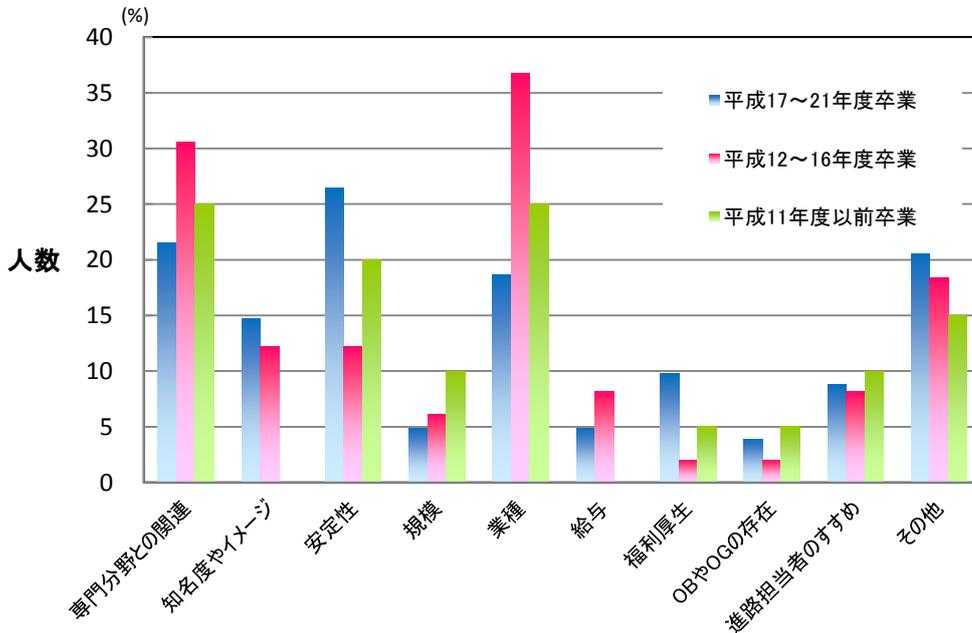


図7 進路決定理由

(6) 大学卒と比較した高専生の魅力

図8は、卒業生自身が考える大学卒と比較した高専生の魅力を示した図です。複数選択による回答では、高専生の魅力としては、「若い」、「即戦力」、「専門能力がある」が大半を占めました。逆に「リーダーの資質」を選択した回答はありませんでした。

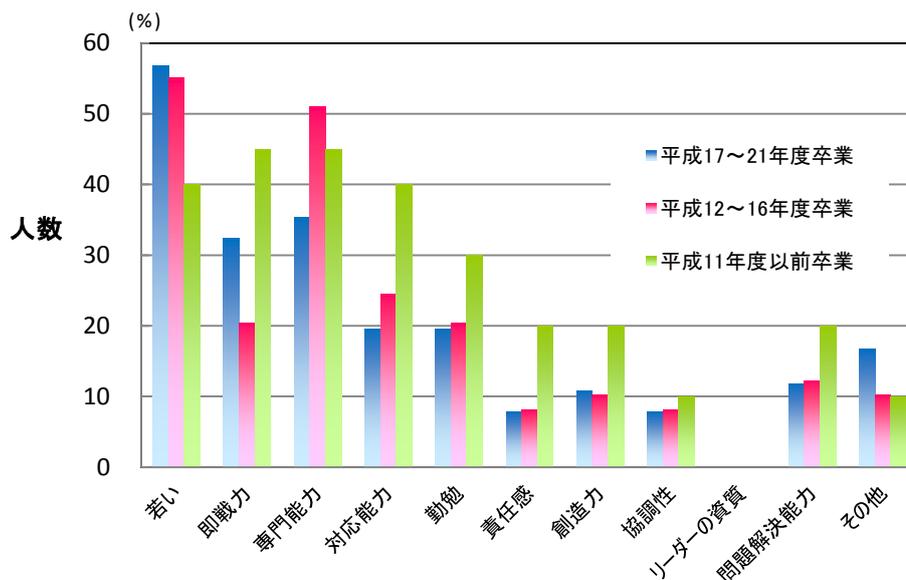


図 8 高専生の魅力

(7) 本校で学んで役立ったこと

表 3 は、本校で学んだことの中で「非常に役に立った」、「役に立った」と回答した項目を集計し、工業高専（現品川キャンパス）と航空高専（現荒川キャンパス）に分けて示したものです。工業高専では、創意工夫や情報収集力が役に立ったと思う卒業生が多いのに対し、航空高専では、専門知識やデータ処理能力が役に立ったと回答する卒業生が多く見られました。また(6)でも述べましたが、リーダーとしての資質の部分では両キャンパスとも比較的低い値を示しています。

表 3 本校で学んで役立ったこと (%)

品川	項目	荒川
48	工学や技術に関する専門知識	79
58	データ処理能力	64
24	問題解決能力	49
70	情報収集力	45
71	創意工夫	48
62	プレゼンテーション能力	33
68	英語力	7
67	一般常識	13
41	コミュニケーション能力	43
54	仕事ののみこみ	44
32	リーダーとしての資質	15
57	チャレンジ精神	42
58	行動力	47
51	協調性	52
40	勤勉さ	50
48	責任感	45

(8) 本校の教育で今後必要になることや強化すべき点

ア 本校の教育で今後必要になること

アンケートでは、本校の教育目標に関する6項目について今後必要と考える順位の回答をお願いしました。順位付けの集計結果は、以下のとおりです。

(本校の教育で今後必要になること)

- 1位 進んで課題を発見し、解決しようとする姿勢
- 2位 工学的知識・技術の基礎基本を身に付けること
- 3位 豊かな国際感覚
- 4位 企業が求めるような即戦力型の実践的技術者
- 5位 国際社会で活躍する基礎となる英語力
- 6位 豊かな教養、倫理観および広い視野

イ 本校の教育で強化すべき点（選択回答）

本校の教育で強化すべき点について、回答の上位3位は次のとおりです。

- 1位 コミュニケーション能力の育成
- 2位 課題解決型学習等による問題発見・解決能力の育成
- 3位 大学とは異なる、徹底的なものづくり実践教育

「コミュニケーション能力の育成」は、両キャンパスともに他の回答と比べて高い割合の回答（13.6%）があり、強化すべき点と捉えられています。

(9) リカレント学習の希望

リカレント学習など再度高専で学習する機会への参加希望に関しては、次のような回答を得ました。

(回答の割合)

- 参加する・・・13.5%
- 参加しない・・・31.6%
- 内容による・・・46.8%
- 無回答・・・8.2%

内容により参加すると答えた方が半数程度でした。アンケートでは希望する学習内容について自由に記載していただきましたが、内容は多岐にわたり、特徴や傾向は特に見られませんでした。

## 4 まとめ

### (1) アンケート結果の特徴と課題

今回初めて同窓会（鮫洲会、大空会）の協力を得て、卒業生へのアンケート調査を実施しました。回答いただいたアンケートからは、本校卒業生が卒業年度に関係なく勤務する企業の期待に応えるように、それぞれが努力していることが伺えました。

課題として見えてきたことは、コミュニケーション能力と問題解決能力の育成です。アンケートに回答した卒業生の多くの方が強化すべき点として挙げています。

本校で学んだことで役に立ったことについては、工業高専（現品川キャンパス）と航空高専（現荒川キャンパス）で回答に差が見られました。理由について今後分析を進めてまいります。

卒業年度別の年収の推移については、国税庁による民間給与実態統計調査の結果と同程度の年収を得ていることが分かりました。

卒業生の転職回数を見ると、平成17年度以降では97.3%の卒業生が1社目で仕事をしているのに対し、平成17年度より前の卒業生は、転職の割合が増加しています。

進学・就職支援については、卒業生は概ね満足していますが、「不満足」と回答している割合が10%を超えている点は今後の課題と言えます。

また、回答数が合計171名で回答率が7.2%にとどまったことは、今後同様のアンケート調査を実施する際の課題点となりました。

### (2) アンケートから分かったこと

今回の卒業生アンケートでは、先に実施した企業アンケート（※）の結果と同様の傾向を示す部分が多く見られ、本校教育の課題や強化する点に関して示唆に富む結果が得られました。

採用側である企業の評価と、実際に企業等で働く中で感じた卒業生の本校教育に対する評価とで一致した点とそうでない点など、今後更に詳細に分析し、本校の教育改善につなげてまいります。

(3) 御礼

今回のアンケートでは、本校教育に対する貴重な意見を頂戴することができました。今後、これらの意見などアンケート結果を基に一層の教育改善に努めてまいります。アンケートに回答いただきました卒業生の方々とご協力いただきました関係者の方々に改めて御礼申し上げます。

平成24年3月  
教育企画改善室

(参考)

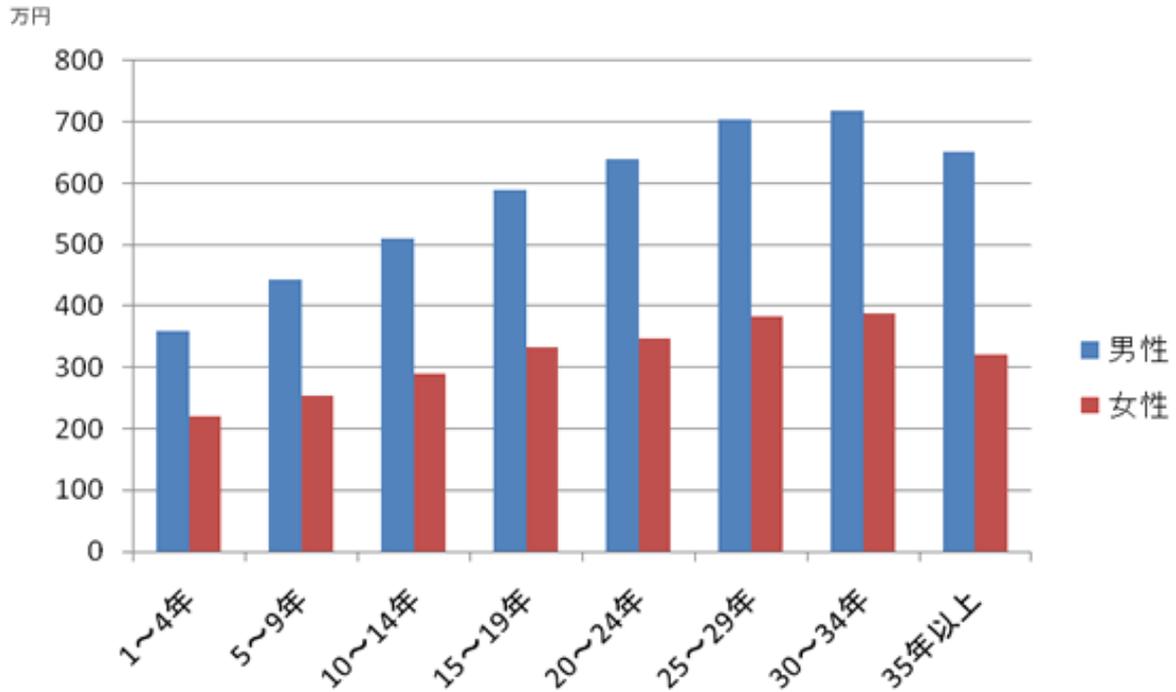
※「企業による都立工業高等専門学校・都立航空工業高等専門学校卒業者に対する評価と要望」(都立高専卒業者に係る企業アンケート)

平成21年度に調査を実施しました。調査結果については、東京都立産業技術高等専門学校ホームページで公表しています。

[http://www.metro-cit.ac.jp/topics/2010/news\\_20100507\\_1.html](http://www.metro-cit.ac.jp/topics/2010/news_20100507_1.html)

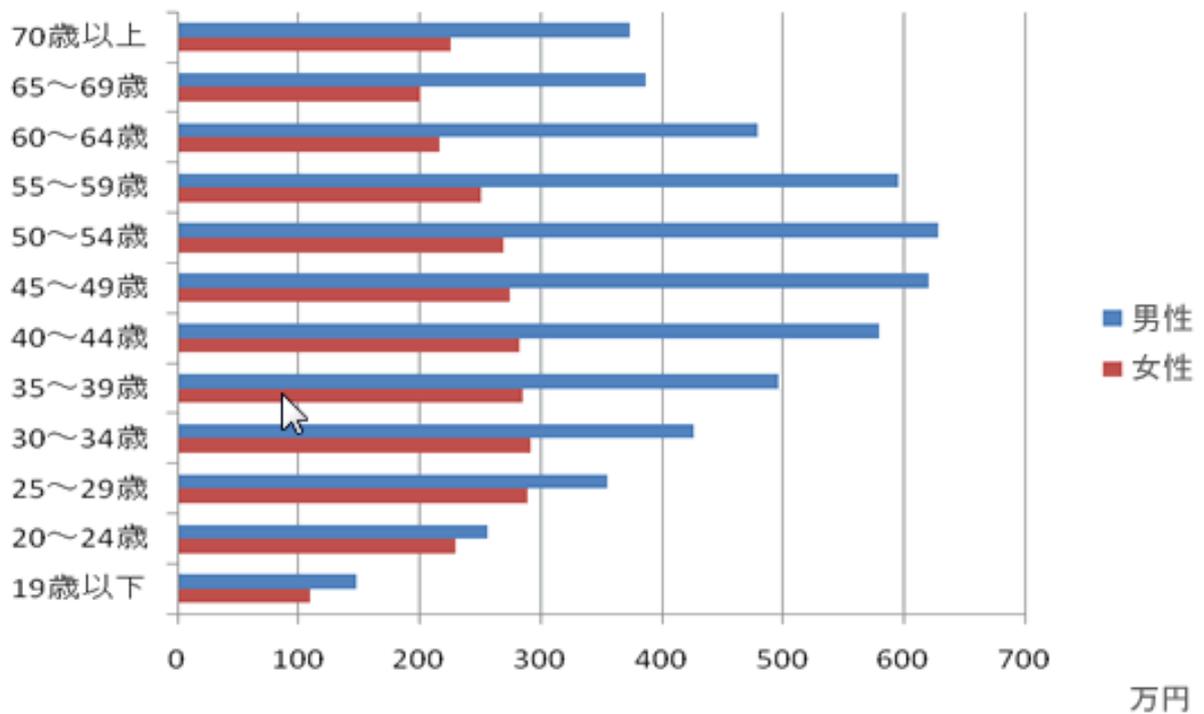
(付録)

平成21年の国税庁による民間給与実態統計調査結果 (一部抜粋)



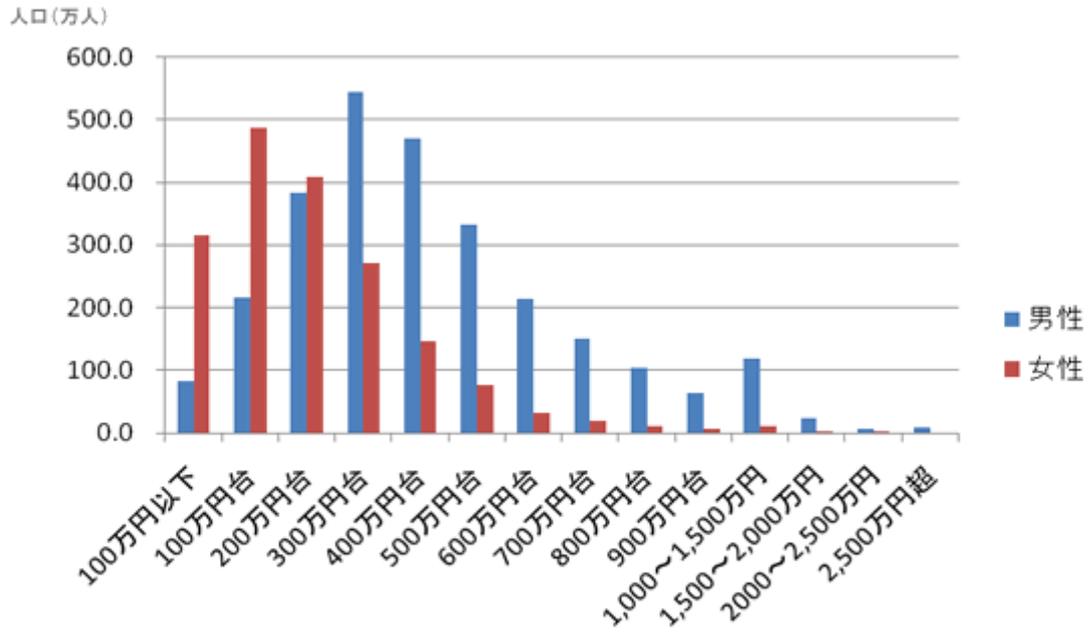
統計元: 国税庁 平成21年 民間給与実態統計調査結果

図1 勤続年数別年収の推移



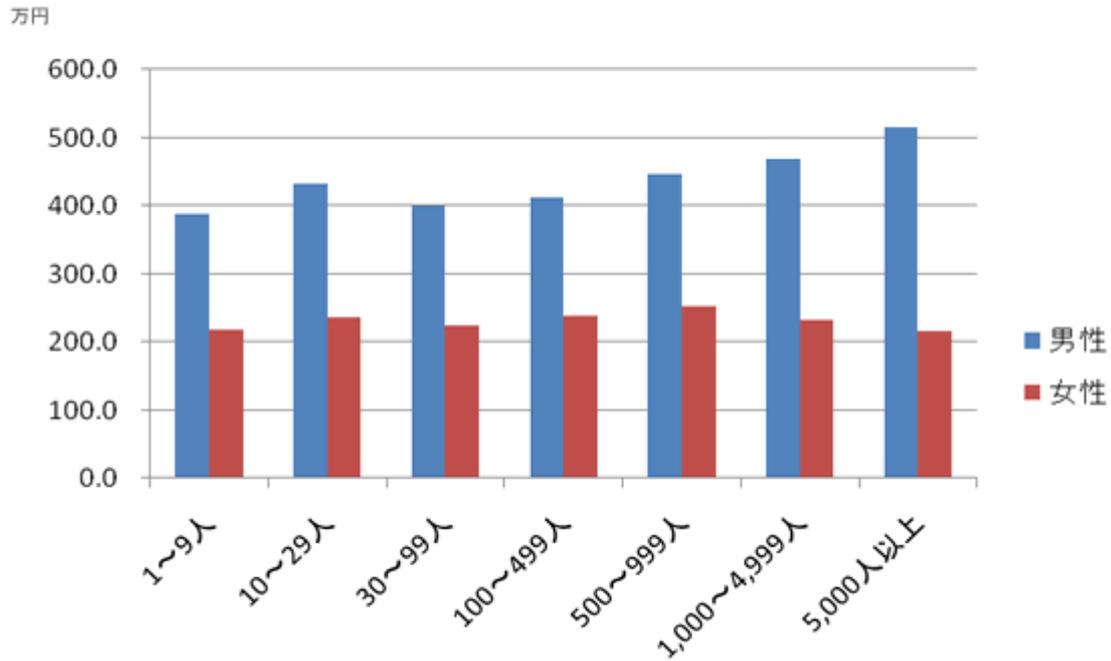
統計元: 国税庁 平成21年 民間給与実態統計調査結果

図2 年齢別年収の推移



統計元: 国税庁 平成21年 民間給与実態統計調査結果

図3 階層ごとの平均年収の推移



統計元: 国税庁 平成21年 民間給与実態統計調査結果

図4 企業規模別の平均年収の推移